

○今回のポイント

古代インド思想は、どの思想でも輪廻からの解脱を目指す！

1.バラモン教

1-1.古代インドの社会と思想

○インド古代思想の流れ

バラモン教の成立

- ↓ ・アーリヤ人の侵入 → 4 ヴァルナ+ジャーティ(社会集団) →カースト制度
- ・自然崇拝の多神教 → 神々への賛歌と儀礼 →聖典[① ヴェーダ] →バラモン教

仏教の成立

- ↓ ・商工業の発達と都市の成立 →王権の伸長とバラモンの威信低下 →バラモン批判
- ・六師外道による様々な思想の展開、仏陀も当初は自由思想家のうちのひとり

仏教の発展

- ・[② 上座部] : 個人の悟りを目指す。
- ・[③ 大乘仏教] : 万人の救いを目指す。ナーガールジュナ、ヴァスヴァンドゥ

○輪廻と業

- ・[④ 輪廻] : 人間がさまざまなものに生まれ変わりながら、無限に生死を繰り返すこと。
- ・[⑤ 業] : 人間の生存中の行為(結果をもたらす力を持つとされる)

[図解]

1-2.ブラフマンとアートマン

○ウパニシャッド哲学

- ・バラモン教は当初、祭祀中心 →奥義書[⑥ ウパニシャッド]で教義が整備
- ・輪廻からの[⑦ 解脱]を目指す → 梵我一如で解脱できる！

→輪廻の循環から解き放たれ、生死を超えた絶対の境地に至る在り方

○梵我一如とは何か？

- ・[⑧ ブラフマン] (梵) : 宇宙のあらゆる現象の根底にある、宇宙を生み出している不変・絶対の真理のこと
- ・[⑨ アートマン] (我) : すべての生き物の中にある何に生まれ変わっても変化しない自己
- ・[⑩ 梵我一如] : 自身の奥底にある不変の自己は、宇宙の絶対の原理と同一であること。

[図解]

1-3.ゴータマの登場

○バラモン教の権威低下 ←経済発展による王侯・商工業者の権力強化



【⑪ 六師外道】の登場

※伝統や権威を否定し、道徳の無意味を説く道徳否定論者や快楽論者などの自由思想家

※**【⑫ ジャイナ教】**：ヴァルダマーナ(マハーヴィーラ)が開祖。

徹底した苦行と不殺生により解脱を目指す。

<ジャイナ教の概念図>



○ヒンドゥー教

- ・古来の正統バラモン教がさまざまな民間信仰を取り入れて発展したインドの自然的民族宗教。
- ・創造神ブラフマン、維持神ヴィシュヌ、破壊神**【⑬ シヴァ】**を「一体三神」と崇める。
- ・ブラフマンが世界を創り、ヴィシュヌが維持し、シヴァが世界を破壊し新たに創造する。

○仏教の誕生

- ・バラモン教批判が起こり、自由思想家たちの興隆の中で仏陀も教えを説き始める。
- ・快楽主義や苦行による解脱の立場の両極端を退け、**【⑭ 中道】**による解脱を目指す。

【発展学習問題】

問題1 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

古代インドでは、仏教が誕生する以前から、人間のあり方をめぐって深い思索が展開されていた。『ウパニシャッド』の哲人たちは、内なる真実の自己に目覚め、これが宇宙の根本原理と同一であるという③**梵我一如**の境地に達することを理想とした。また、**【I】**をはじめとする新しい思想を実践する出家修行者(沙門)たちも現れた。仏典において「六師外道」と呼ばれている人々である。これに対し、ゴータマ・ブッダは人間の生き方を捉え直し、諸法無我の教えのもとに、日常における自己のあり方を意識的に転換していくことが悟りへの道であると説いた。

問1 下線部③の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① アートマンが存在のよりどころとしている身体を不滅なものにすることによって、永遠性を獲得した境地。
- ② アートマンを創造した神の行為を認識し、神の慈愛による救済を通して、永遠性を獲得した境地。
- ③ アートマンと宇宙的原理が同一であることを直観し、それによって永遠性を獲得した境地。
- ④ アートマンの中に変化しない要素はないことを認識し、執着を捨てて永遠性を獲得した境地。

問2 文中の**【I】**に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① バラモン教
- ② ジャイナ教
- ③ ヒンドゥー教
- ④ ゴロアスター教

(センター06本試, 03追試, 00追試 改)